

NO.	項目		令和5年度対計画比を踏まえた分析・考察 (要介護認定者数・要介護認定率のみ令和6年度)	備考
1	要介護認定者数(R6年度)		<ul style="list-style-type: none"> ・認定者数及び要介護認定率ともに計画値を下回っている。 ・一般介護予防事業の推進、地域における取組の進展の効果が表れ、介護サービスによる日常生活での介護を必要としない高齢者が増えていることが、認定率の低下につながっていると考えられる。 	総括表
2	要介護認定率(R6年度)			
3		施設サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・施設サービス全体としては、計画値を下回る実績となった。 ・介護老人保健施設においては、医療法人が運営している施設が多く、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化したことにより、利用者数が減少し、計画値を下回る実績となったと考えられる。 ・介護医療院については、近隣市町における病床数の増加が要因となり、地域における受け皿が拡充されたことから、計画値を上回る実績となったと推察される。 ・介護療養型医療施設に関しては、当初計画では令和5年度末で廃止予定であったが、制度上の転換の経過措置が延長されたことで、引き続き利用者が存在し、一定の実績が見られた。 	総括表詳細(1)
4		居住系サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・居住系サービス全体では、若干計画値を下回る実績となったものの、ほぼ計画どおりの推移であった。 ・特定施設入居者生活介護については、計画値では満床を想定していたが、実際には想定以上に空床が発生したことが要因と考えられる。そのため、計画値を若干下回る結果となった。 	
5	利用者数	在宅サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅サービスの利用状況については、サービスごとに計画値との間に大きな差異が見られた。 ＜計画を上回ったサービス(利用者増)＞ ・訪問看護、訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導については、医療ニーズの高まりやリハビリへの関心の増加、さらに在宅医療と介護の連携が進展していることが、利用者数増加の要因と考えられる。 ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護については、利用規模が小さいため、わずかな利用増減が比率に大きく反映されやす傾向にあると言える。 ＜計画を下回ったサービス(利用者減)＞ ・訪問入浴介護については、利用規模が小さいため、利用規模が小さいため、わずかな利用増減が比率に大きく反映されやすい傾向にあると言える。 ・地域密着型通所介護については、事業所減(廃止3, 新規2)が主な要因とされる。 ・ショートステイ(短期入所生活介護・短期入所療養介護)については、新型コロナウイルスの影響により施設の利用制限が生じたことが、利用者数減少の要因と考えられる。 ・特定福祉用具販売および住宅改修については、感染症対策により、事業者との面会を控え、契約が積極的に行われなかったことが要因と考えられる。 ・認知症対応型通所介護については、感染症拡大の影響により施設利用が制限されたほか、利用控えもあったと考えられ、計画値を大きく下回る結果となった。 	
6	受給率	施設サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・受給率はほぼ利用者数に連動した実績となっているため、利用者数の分析と同様のことが言える。 	
7		居住系サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・受給率はほぼ利用者数に連動した実績となっているため、利用者数の分析と同様のことが言える。 	
8		在宅サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・受給率はほぼ利用者数に連動した実績となっているため、利用者数の分析と同様のことが言える。 	

NO.	項目		令和5年度対計画比を踏まえた分析・考察 (要介護認定者数・要介護認定率のみ令和6年度)	備考
9	1人1月あたり利用日数・回数		<ul style="list-style-type: none"> 全体として、概ね計画どおりの利用状況となっている。 各サービスにおいても要支援・要介護認定者の和は計画どおりとなっている。 	総括表詳細(3)
10	受給者1人あたり給付費	施設サービス	<ul style="list-style-type: none"> 施設サービス全体では、概ね計画値どおりの実績となっている。 介護医療院については、想定していたよりも軽い介護度の方が利用していると思われる。 	総括表詳細(4)
11		居住系サービス	<ul style="list-style-type: none"> 居住系サービス全体では、概ね計画値どおりの実績となっている。 特定施設入居者生活介護について、計画を若干上回っているが、利用者数が計画を下回っていることから、想定していたよりも重い介護度の方が利用していると思われる。 	
12		在宅サービス	<ul style="list-style-type: none"> 在宅サービス全体では、概ね計画値どおりの実績となっている。 居宅療養管理指導、地域密着型通所介護については、想定よりも介護度の重い方の利用が増えてきていると思われる。 訪問看護、訪問リハビリテーションについては、想定よりも介護度の軽い方の利用割合が高いと思われる。 短期入所療養介護(病院等)、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、認知症対応型通所介護については、利用規模が小さいため、わずかな利用増減が比率に大きく反映されやすい傾向にあると言える。 	
13	給付費	施設サービス	<ul style="list-style-type: none"> 介護老人保健施設において、新型コロナウイルスの影響による利用者数の減少が考えられるため、施設サービス全体でも計画値を下回っている 介護医療院については、近隣市町における病床数の増加により利用者数が計画値を上回る実績となったことから、計画額より給付費が上回った。 	総括表詳細(5)
14		居住系サービス	<ul style="list-style-type: none"> 特定施設入居者生活介護については、利用者数が計画値を若干下回ったが、受給者1人あたり給付費が計画よりも若干高かったため、居住系サービス全体でおおむね計画値通りとなった。 	
15		在宅サービス	<ul style="list-style-type: none"> 在宅サービス全体としては、計画値を下回っているが、訪問入浴介護、地域密着型通所介護、ショートステイ(短期入所生活介護・短期入所療養介護)、福祉用具購入費、住宅改修費、認知症対応型通所介護において、利用者数が計画値を大きく下回ったためと考えられる。 居宅療養管理指導については、利用者数が増え、介護度の重い方についても利用していることから計画値を大きく上回った。 定期巡回・随時対応型訪問介護看護、認知症対応型通所介護については、利用規模が小さいため、わずかな利用増減が比率に大きく反映されやすい傾向にあると言える。 	